

2021年度第3四半期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q：足元の部材調達難と物流費の高騰の状況について教えてほしい。

A：スライド14のように、半導体などの調達難を起因とする供給制約は厳しく、プリンターを中心に多くの商品で年間の販売目標を引き下げた。

輸送運賃は足元でもさらに高騰し、この影響は来期も続く見込みだが、エプソンは販売価格対応や費用抑制を継続することで、コスト増加に対応していく。

Q：一般的に部材調達難がある中、どのような商品の部材を優先的に手配しているのか？

A：商業・産業分野向けプリンターや、大型オフィス複合機など、できるだけ利益率の高い商品の供給を優先的にやりたいと考えている。しかし、商業・産業向け商品で使う部品と、家庭用向け商品で使う部品は異なるため、意向通りに部材を確保するのは難しい。

Q：設備投資の通期予想額が、前回10/29予想時から60億円引き下げられている。これは、来期以降の業績に影響がないものかどうか確認させてほしい。

また、マイクロデバイスは、生産能力の増強などを行うことで、さらに供給量を増やせるのか？

A：今期の投資を修正したのは、部材不足による装置の納入遅延や、投資時期の見直しによる。COVID-19の影響で新商品の投入が来期にスライドしたものがあがるが挽回できる範囲。

マイクロデバイスは、水晶デバイスを中心に投資を行っており、今後、供給量を増やしていく。

● オフィス・ホームプリンティング

Q：オフィス・ホームIJPにおける在宅印刷需要の変化を教えてほしい。

A：第3四半期のインクの売上収益は、前年同期に対してマイナス2%となった。

インクカートリッジモデルプリンター用のインクカートリッジは、需要が高かった前年同期からは減少している一方で、大容量インクタンクモデルプリンター用のインクボトルは増加している。両者のインク量を合算して考えると、印刷量は落ち着きを見せているものの、依然として高い水準であり、エプソンは、印刷量の多いお客様のニーズを確実に捉えていると考えている。

● 商業・産業プリンティング

Q：成長ドライバーとして期待の大きい商業・産業IJPの状況を教えてほしい。

A：完成品ビジネスの需要は旺盛であり、部材不足の影響を受けながらも、商品ラインアップを整えてきたサインージ・テキスタイル・ラベル向けを中心に拡大している。プリントヘッド外販ビジネスも、当初の戦略通り、中国で非正規流通のプリントヘッドを使用していた顧客への直接販売も順調に進むとともに、商品ラインアップも拡充しており、さらなる成長が期待できる。

足元では、完成品ビジネス・プリントヘッド外販ビジネスともに、中国で電力制限や、ゼロコロナ政策による人流抑制などによるサインージ市場の停滞影響を受けているが、これは一時的なものと考えている。

Q：スライド10に示されている第3四半期の事業利益の増減要因のうち、商業・産業IJP本体は普及価格帯販売が増加したことで平均販売単価がマイナスになったとあるが、詳しく教えてほしい。

A： 商業・産業 IJP で、新規に投入したコンパクトな普及価格帯モデルの販売が好調に推移しており、数量変動がプラスとなった一方で、商業・産業 IJP 本体の平均販売価格はモデルミックス変動により低下しているため、価格変動はマイナスとなった。コンパクトモデルの普及により、小規模店舗やバックヤードでのデジタル印刷も容易になり、新規需要の創出にもつながっていると考えている。

#### ●ビジュアルコミュニケーション

Q： ビジュアルコミュニケーションは前年同期比で増益が続いているが、その要因と、来期の見込みについて教えてほしい。

A： これまで構造改革を進め、固定費を抑制してきた。足元では、需要が回復しつつある中で、モデルミックスの良化や価格対応を実施している。

今後は、中価格帯では市場が FPD の侵食を受けシュリンクすると見ているが、高価格帯モデルやスマートプロジェクターの販売を伸ばしていきたい。

Q： スマートグラスは「メタバース」とも親和性が高いと考えるが、ビジネスの進捗はどうか？

A： スマートグラスは、完成品の販売だけでなく、コアデバイスである光学エンジンの外販も開始している。さまざまな業界の方と協働するなど、あらゆる手段を視野に入れ、今後の展開を模索している。

#### ●マニファクチャリング関連・ウェアラブル

Q： マニファクチャリングソリューションズ（ロボット）は四半期推移だと成長が鈍化しているように見えるが、その要因を教えてください。

A： 譲渡した IC ハンドラー事業のマイナス影響があったものの、前年同期に対しては、ロボットは欧米などの自動車関連向け中心に増収となっている。中国向けの売上収益は、第 1 四半期に需要回復を捉え伸長したが、その後は顧客の部材調達難による一時的な調整があり、第 3 四半期は前年同期並となった。

以上